

図書館オリジナル絵本

今回は、図書館のボランティア活動から生まれた、日本でここ坂出にしかないオリジナル絵本を紹介します。

坂出の昔話や偉人のことを紹介する子ども向けに書かれた本が少ないことを知った地域の人たちが、それぞれの特技を生かして、坂出の子どもたちのために大型紙芝居を作ってくれました。図書館では、その原画を元に絵本を作りました。

最初に紹介するのは、「久米栄左衛門物語」です。文は石井雍大さん、絵は前田襄さんです。坂出市は少し前までは日本一の塩の町として、その名を全国にとどろかせていました。この塩の町坂出を開いた人が久米栄左衛門です。栄左衛門は、小さい頃からとても器用な子どもでした。7歳の頃、はじめてお父さんと大阪へ行ったとき、ふと立ち寄った時計屋さんでのエピソードです。時計屋さんでも直せなかった壊れた時計を見事に直して見せたのです。19歳で天文学や測量学を学び、26歳の時には地図を作るため讃岐の海岸線の測量に携わりました。また、火縄銃を改良して様々な鉄砲を考案しています。そして、栄左衛門46歳の頃、高松藩の命により塩田開発に取り組み、遠浅で雨の少ないここ坂出に塩田を作ることになったのです。栄左衛門は難工事を乗り越え、1829年坂出塩田は見事に完成したのです。この絵本は、塩田の父久米栄左衛門のマルチな天才ぶりを伝えるとともに、今も残る坂出墾田の碑を紹介するなど、子どもたちがふるさと坂出をより身近に深く知ることができる貴重な絵本です。巻末には、今は見ることのできない塩田作業の写真も紹介されています。

2冊目は、「坂出昔話 大魚退治ものがたり」です。文は石井雍大さん、絵は三池誠一郎さんです。むかしむかし、坂出の沖には大きなおぼけ魚がいて、漁に出た人々をひと飲みになると恐れられていました。そのおぼけ魚を退治するためにヤマトタケルを大将に88人の屈強な若者が選ばれました。しかし、大きなおぼけ魚には歯が立ちません。あっという間に船もろとも飲み込まれてしまいます。その時タケルは…。坂出に伝わる伝説を題材に西庄町にある八十場の清水のいわれや、文京町の香川県立坂出高等学校の松林にある魚御堂跡の碑。そして、現在の江尻町や福江町の地名の由来にもこのお話が繋がっていることがわかります。

3冊目は、「西行の白峯詣でと雨月物語」です。文は石井雍大さん、絵は前田襄さんです。崇徳上皇が亡くなって3年目の秋、墨染の衣を着た一人の僧が錫杖をつきながら白峯御陵への山道を一步一步登っていました。僧の名は西行、崇徳上皇を弔うためにはるばる訪ねて来たのでした。夕闇がせまる山中に西行の読経の声が響き出すと、濃い霧の中から誰かが呼ぶ声が聞こえてきました。この絵本は上田秋成の雨月物語を題材に描かれています。また、この絵本を映像化したDVDも作成したのでぜひご覧ください。坂出には、西行が崇徳上皇の霊を慰めるために白峯御陵を訪れた道が「西行の道」としてつくられています。ご家族で坂出の歴史を感じながらゆっくりと歩いてみて下さい。

この他にも、「保元の乱と崇徳上皇」・「島本善四郎 アメリカを見る」などのオリジナル絵本を

作成して、子どもたちのふるさと学習に役立てています。

大橋記念図書館では、さまざまなボランティア活動が盛んに行われています。人々が集い、学び合い、分かち合う地域の絆づくりを大切に、その力を未来の文化の継承者である子どもたちをはぐくむ活動につなげてまいりたいと考えています。坂出だけのオリジナル絵本もある大橋記念図書館にぜひご家族で遊びにおいで下さい。